

ハウス周辺におけるコナジラミ類の発生活長と気温との関係

ハウス周辺におけるコナジラミ類の発生活長は、8～9月に多く10月以降減少する。しかし、4月になると再び増加する。なお、10～12月は日平均気温が10以下、または、日最高気温が15以下になると野外のコナジラミ類は活動しない。

農業研究センター 生産環境研究所 病害虫研究室 (担当者: 古家 忠)

研究のねらい

トマト黄化葉巻病の病原ウイルスTYLCVは、媒介虫シルバーリーフコナジラミ成虫のみにより伝搬される。そのため、本病の感染防止のためには、媒介虫のハウス内侵入防止が重要であるが、媒介虫のハウス周辺での発生活長については不明な点が多い。そこで、ハウス周辺のコナジラミ類の発生活長を解明するとともに、コナジラミ類のハウス周辺への飛来限界を推定する目安として、気温との関係を解明する。

研究の成果

1. トマト栽培ハウス周辺では、定植時期に関係なく8～9月にコナジラミ類の誘殺数が多く、10月以降は減少する。12月～翌年3月まではコナジラミ類の誘殺はほとんど確認されないが、4月下旬～栽培終了時にかけて誘殺数は急激に増加する(図1)。
2. 10～12月のコナジラミ類の誘殺数は、気温の低下とともに減少し、日平均気温が10以下、または、日最高気温が15以下になると、ほぼ0になる(図2)。

普及上の留意点

1. ハウス周辺でコナジラミ類の密度が高い夏季～秋季及び春季は、シルバーリーフコナジラミのハウス内への侵入防止及びハウス内からの飛び出しを防ぐため、ハウス開口部を防虫ネットで被覆する。
2. シルバーリーフコナジラミの定着を防ぐために、ハウス内およびその周辺の除草を徹底する。
3. コナジラミ類の誘殺数がほぼ0になる気温は、週間天気予報の最高気温が目安にできる。なお、抑制及び促成トマト栽培地域で前述の気温となるのは、平年値で11月6半旬～12月1半旬である。

[具体的データ]

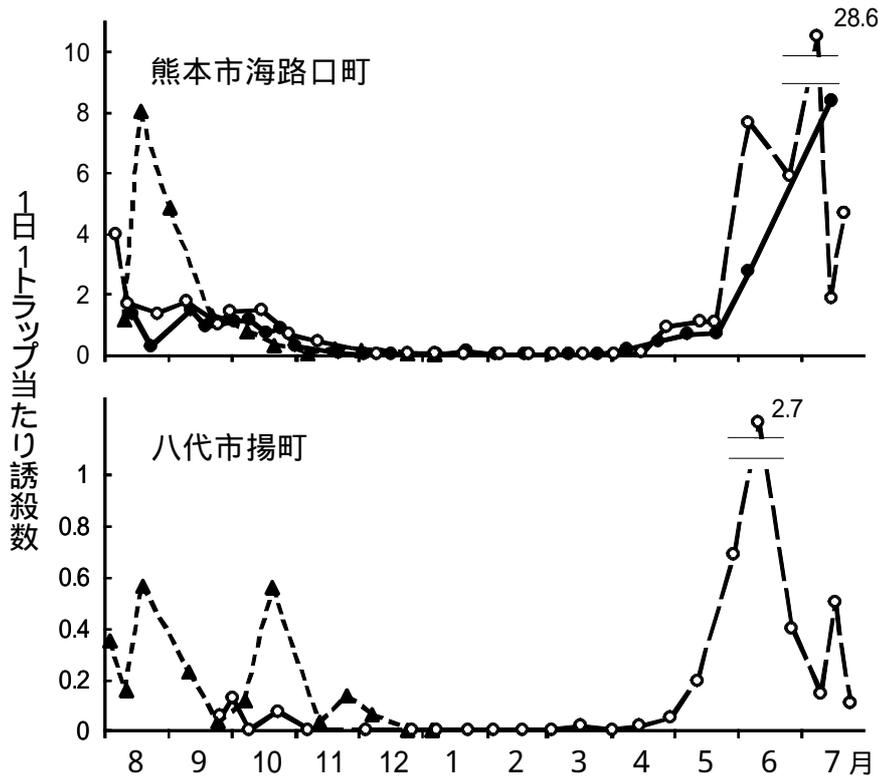


図1 ハウス周辺におけるコナジラミ類の誘殺消長
 熊本市海路口町：8月上旬定植、5月栽培終了、6月片付け
 八代市揚町：9月上旬定植、5月栽培終了、6月片付け
 ：2001～2002年、：2002～2003年、：2003～2004年
 ハウス4辺の外側に黄色粘着トラップを設置し、コナジラミ類の誘殺数を調査した。

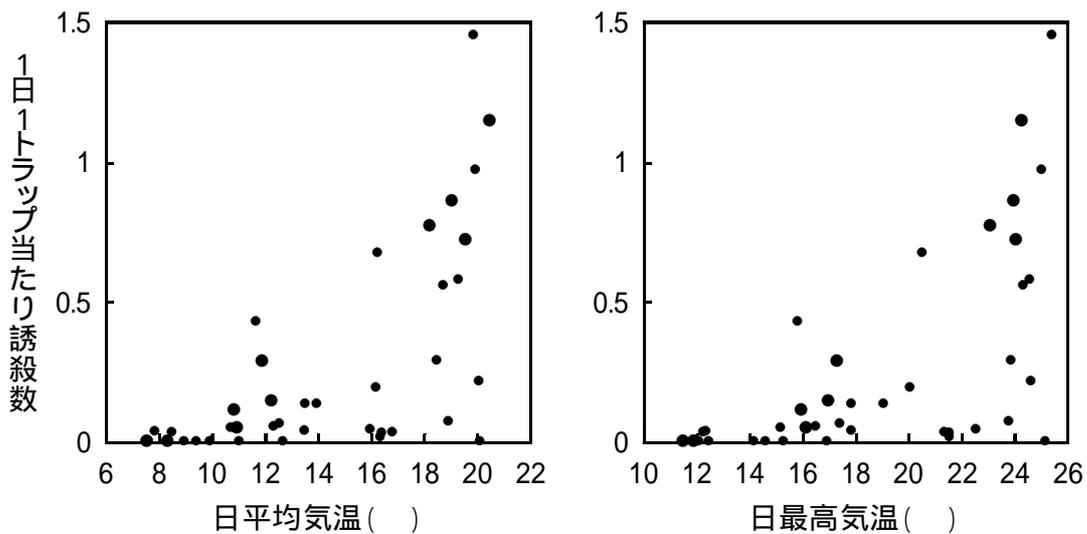


図2 誘殺数と気温との関係 (2001-2003年)
 調査地点：2001年 熊本市海路口町、三角町大口
 2002、2003年 熊本市海路口町、沖新町、八代市揚町
 コナジラミ類の誘殺数が減少する10～12月のデータを用いた。